

(1)概要

| | | |
|--------|--|------------------------|
| 日時 | 令和 5 年 2 月 16 日(木)13:30~15:30 | |
| 場所 | 大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) 又は情報機密が確保できる場所 ※集合開催、web 開催併用 | |
| 出席者 | 会長 | 辻 行雄(L's College おおさか) |
| | 副会長 | 冨永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学) |
| | 委員 | 山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校) |
| | 委員 | 藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園) |
| | 委員 | 牧添 智美(寝屋川支援学校 PTA 代表) |
| | 校長 | 阪本 友輝 |
| | 准校長 | 藤田 太朗 |
| | 事務局 | |
| | 事務部長 | 石川 昌義 |
| | 教頭 | 吉村 晋治 (事務局長) |
| | 教頭 | 豊島 秀多 |
| | 首席 | 角尾 将司 |
| | 首席 | 西田 宜弘 |
| | 首席兼バス部長 | 坂田 真一 |
| | 首席兼教務部長 | 東川 彩 |
| | 指導教諭 | 日置 節子 |
| | 小学部主事 | 亀村 尚希 |
| 中学部主事 | 井戸 久美 | |
| 高等部主事 | 西橋 聖次 | |
| 進路指導主事 | 坂元 久美子 | |

(2)議事録

| 内容 | |
|---|--|
| ① 令和 4 年度卒業生の進路状況について ② カリキュラムマネジメントについて ③ 令和 4 年度学校アンケート結果について ④ 令和 4 年度学校経営計画評価及び令和 5 年度学校経営計画について | |
| 阪本校長 | 挨拶 3学期の始業式の話の中で、行く・逃げる・去るので充実させていこうと話した。 卒業式は、マスクをはずして実施する。(通知あり)羽ばたいてほしい。 マスクの着脱については、児童・生徒の実態に合わせて行う。 今年度の学校経営計画の評価案と次年度の学校経営計画の実施案を提示する。 忌憚のないご意見をいただけたらと思います。 |

| | |
|------------------------|--|
| <p>進路指導主事 坂元先生</p> | <p>令和4年度卒業生の進路状況について</p> <p>進路予定先の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学部:高等支援学校や通信制高校の受験希望もある。 ● 高等部:就労6名、訓練校4名、福祉就労40名の希望がある。 ● 最終決定したものは「進路のてびき」に掲載。 <p>今年度の新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「進路だより」の発行。学校HPでも閲覧可能。 ● 小6保護者対象「進路ガイダンス」2回実施。 ● 高3保護者対象「障害年金説明会」開催。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高1校内実習3日間から5日間へ。高2体験実習を2回実施。 ● 「福祉事業所活動紹介冊子」業者委託の検討。 |
| <p>牧添委員</p> | <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度は就労が2名、高等支援学校は0でした。今年度は就労が6名に増えたり、高等支援学校への進学が増えたりと、何か良い刺激となることがあったのですか？ |
| <p>坂元先生</p> | <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 進路選択の幅が増えてきていて、たくさんの情報の中から、生徒と保護者が生徒にあった進路先を選べる環境にある。 ● 高2から就労支援コースの生徒の企業実習を必須としたことにより、経験が増え進路選択の幅が広がったことも一因と考えられる。 |
| <p>東川首席</p> | <p>カリキュラムマネジメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別の指導計画の様式変更、時間割の改編をおこなった。 <p>時間割改編について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年4月より、時間割改編委員会を発足 令和4年4月より、時間割編成委員会に名称を変更 ● 12年間系統立てた寝屋川シラバスに基づいた授業が確実にできるようになった。 ● 体育館やグラウンドの特別教室をより使いやすくなった。 ● 40分授業に授業時間を短くすることで、授業回数を確保し、繰り返し学習を重視 ● 令和6年度の本格実施に向けて、令和5年度も時間割編成委員会を継続 |
| <p>山崎委員</p> | <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでは40分授業だった？45分だった？単位のカウントなどはどうしているのか？ |
| <p>東川首席</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● これまでは学部によって違い、高等部であれば1・2時間目をつなげて70分授業としてい |

| | |
|-------------|--|
| <p>富永委員</p> | <p>た。</p> <p>特別支援学校は地域の学校のように1単位時間で授業というものがなく、総授業時数が定められている。給食準備なども自立活動の時間として授業時数としてカウントしているので、小学校とは違うところがあると思う。</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムマネジメントは重要という認識ある。個別の計画と教育課程の関連性など、教科横断的な部分でどう関連つけて、また学部を越えてどのように取り組むかが重要になってくる。その中で PDCA サイクルなどは重要な役割になるが学校全体でどのように考えているか？ ● 教育課程では横帯の繋がりや縦帯の繋がりがあって、個別の計画との絡みをどのように追求しているか？ ● また時間を短くした経緯は？ |
| <p>東川首席</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 時間を短くした理由は、繰り返し取り組めるようにするため。 ● 40分の時間にした理由は、バス通学との兼ね合いで、一番最適な時間を選んだ。 ● 縦の時間については、続けてとったほうが良いものについては、学部ごとに対応。（高等部の体育と職業、家庭など） ● 個別の計画については寝屋川シラバスを作成した時に細かな内容を検討し、12年間分設定した。それをもとに授業を行うことになっている。PDCA サイクルの実施についてはシラバス通信などを通じて先生方に実施時期などを提示している。 <p>3観点評価も実施し、掲載する。</p> |
| <p>富永委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 40分授業であれば、自閉症の生徒が見通しを持ちやすくなる。 ● 高等部の生徒は連続した授業をした方が良いことがある。 ● 個別の計画については、カリキュラムマネジメントと絡めている学校があるので、個別の計画をどう繋いでいくかが重要になってくる。 |
| <p>辻委員長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援学校の教育課程は自由度のある時間割がこれまで取り入れられてきていた。学校の設置条件によっても時間割が変わってくることもある。 ● 時間割の枠の自由度をどのように考えている？ ● 40分授業だと、導入・展開・まとめをどのように進めていくか？(国数など) |
| <p>東川首席</p> | <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時間割によっては、続けて授業をおこなっている。 ● 40分の授業については、繰り返し行うことで、定着して行くことを考えているので今後、先生方と相談しながら考えている。 |
| <p>富永委員</p> | <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学びの3観点について、文科省が知的の特別支援学校でも教科を定着させようとしている。学習指導要領の内容との絡みをどのようにされているか？ |

| | |
|------|---|
| 東川首席 | <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シラバスをもとに取り組んでいる。熊本大学を参考に作成している。 ● 寝屋川シラバスは学習指導要領を網羅できるようにしている。 |
| 牧添委員 | <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学部の生活の授業が多いがなぜ?生活の授業の中で曜日同士でリンクしているのか? |
| 東川首席 | <ul style="list-style-type: none"> ● 曜日同士ではリンクしていない。小学部の生活科は多数の項目があり、それを 12 年間の寝屋川シラバスで網羅している。その時の児童生徒の実態に応じて寝屋川シラバスをもとに運用シラバスを作成し、運用している。実態により学習内容、段階も変わることがある。 |
| 豊島教頭 | <p>補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 支援学校の生活科は小学校の生活科とは異なる。支援学校の生活科の方が取り組む内容が多くある。 |
| 西田首席 | <p>令和 4 年度学校アンケートの結果について(資料参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒理解の項目 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ポイントが下がっているが、これからも児童生徒一人ひとりの理解に努める。 ➢ 学習指導・教育活動に関するもの下がっているポイントがあるが、学習指導要領をもとに教員間で共通認識を持って、授業のあり方などを検討していく。 ● 道徳教育・人権教育の項目 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各教室を回る中で、お互い助言し合える同僚性が意識されている。 ● 学校組織に関するものの項目 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ICT について、教員はポイントが大きく上がっているが、保護者では低い。 ➢ 取り組みの情報発信や効果的な取組みを伝えていく。 ➢ 教職員の適正配置などについては、ポイントが下がっている。色々進めていることがある中で、一度立ち止まって考える必要があるのではないかと思う。 |
| 牧添委員 | <p>意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動会・学習発表会についてのポイントが上がっているが、凝縮して見られたこと、場所どりなどについても保護者としてはよかった。修学旅行についてその日のうちに何度も様子の写真を配信していただけたてすごくよかった。 ● ICT については保護者のポイントは少ないが、教員は高いポイントになっているので、これからは期待しかない。 ● 先生方がシラバスなどに頑張っていて取り組まれていることについては、保護者はほとんどわかっていない。保護者の評価は、普段の先生方の子どもとの関わりの様子から評価されているのではないかと思う。 |
| 西田首席 | <ul style="list-style-type: none"> ● ICT については、他校との研修の際に、本校は進んでいるように感じる。 ● 授業の参観の部分は、詳しくお伝えできるようにしていきたいと思う。 |

| | |
|--------------|--|
| <p>辻委員長</p> | <p>意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報の発信はとてもしていると思うので、これ以上はどのようにするかは難しいだろう。 ● ICT についての質問は、保護者は理解しにくいので、わかりやすい質問にすれば良いかと思う。 |
| <p>富永委員</p> | <p>意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪教育大学の学生が毎年お世話になっている。 ● 寝屋川支援学校の先生が非常に熱心に取り組まれていて、教材研究もしっかりされている。そのようなところが保護者に伝わる仕組みを作れば良いのではないかと思う。見えにくい環境にもある。 ● 否定的な部分については、本校だけではなく、府全体の課題になっていると思う。否定的なところに注目する必要がある。 |
| <p>西田首席</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の中でも意見が出ているところもあるので、そちらは令和 5 年度の学校経営計画に出てくる。 |
| <p>阪本校長</p> | <p>令和 4 年度の学校経営計画の評価 令和 5 年度の学校経営計画(資料参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 4 年度から令和 5 年度にかけて削除されている部分がある。 無くなったからといっても、達成したことにより、今後は継続していくようにしていく。 ● 時代にマッチした教育理論を構築するについては項目が増えている。 ● 働き方改革については、大阪府としても力を入れていく見込みなので、学校経営計画についても増えている。 <p>令和 4 年度の学校経営計画の評価の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● △については達成していない。○は達成している。 ● 大阪モデルが青信号になったり、コロナへの対応が緩和されている中もあり、取組みの評価について達成できていないことがある。(動画の作成は学年につき1本としている。) ● 図書室の使用稼働率はとてもし上がっているが、蔵書数が足りないために△となっている。 ● 今年度の結果をもとに令和 5 年度分を作成している。 ● 計画については、教員からの意見がかなり出ていて、キャッチフレーズもつけている。 (各項目の説明:資料参照) |
| <p>藤田准校長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 高等部に特化した内容を説明(各項目の説明:資料参照) ● 保護者アンケートより、わかりやすい情報発信と取組内容の見える化が必要。 ● 自立活動を再考することによりキャリア教育の促進につなげる。 ● 高等部教員が自立活動の認識を高められるよう、准校長講話や支援部による研修を実施していく。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自立活動に取り組むためにキャリア教育プログラムを活用する。 ➢ キャリア教育プログラムは現在、アセスメントとしての位置づけとなっているが、次年度は懇談等で保護者と共通認識を持ち活用する予定。 ➢ キャリア教育プログラムを数値化することにより、共通認識を持って目標とする進路に向けて取り組んでいくためのめやすとする。 ➢ 自立活動・授業、実習、懇談等を通して希望の進路につなげていきたい。 |

| | |
|------|--|
| 山崎委員 | <p>学校経営計画の質疑応答</p> <p>質問項目について、それぞれが絞って行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1月31日、2月1日に授業公開をされて、1月31日に勤勤務校の先生と一緒に見学をした。小中高の順に見学した。 ● 12年間の子どもたちが同じ校舎の中で学ぶこと・先生が成長過程を見られることはとても良いことではないかと思う。 ● 個に応じた対応を取らないといけないことは難しさを感じる。 ● 廊下掲示から、先生方が子どもたちの意見を汲み取っておられるところが垣間見られた。 ● チームティーチングで指導していることは、教職員同士が仲良くできていることが重要だと感じた。 ● 小中高と順番に見学させていただくことで、最終的には卒業後の進路に向けて、子供達主体で考えられていることが顕著に見られた。 ● アンケートで下がっているところ、上がっているところあるが、子どもの実態、保護者のニーズも様々なので、これまで同様に進めていってほしいと思う。 |
| 藤本委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教育活動・保護者の連携・働き方改革の面を参考にさせてもらう。 ➢ あかつき・ひばり園には自閉スペクトラム症の園児も多く在籍している。次年度4月から12名が寝屋川支援学校へ進学する予定。寝屋川支援の教育活動、特に自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援も参考にしていきたい。 |
| 富永委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 私は養護学校の教員からスタートして、いろいろなことを取り組んだ。当時から学部間の連携が難しかった。教員のそれぞれの力を出して、色々とチャレンジしてきた。学校として何かを軸にしていくことが大切になってくる。軸に合わせてその他が付随してくる。カリキュラムマネジメントが軸になるのではないかと思う。 ● その軸にどのようなカラー（特色）をつけていくのが重要になってくる。 ● 個別の計画や PISA、学習指導要領の3観点を入れたり、キャリア教育を入れているところもある。 ● 次年度の高等部でキャリア教育プログラムを推進していくということもあるので、そのような取組みを軸としても良いと思う。 |
| 富永委員 | <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークのキャリアだけでなく、ライフのキャリアはどのような取組みに取り組んでいるか？中心を決めて関連つけていく。 |
| 西橋 | <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークキャリアについては職業の授業を中心に力を入れているが、ライフキャリアの部分は主に総合で取り組んでいる。 ● 今年度の高3の校外学習では各クラスで行き先を検討し、生徒が主体となって計画・実施をした。 |

| | |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 一つのクラスは枚方の商業施設に行き、カフェでお茶をして、お土産を買って帰った。卒業後の生徒が余暇活用をどのようにするかを意識した計画であった。 ● 卒業生の中からも以前問い合わせがあり、在籍していた時にクラスで計画した校外学習で食べたランチの場所を訪ねてきた。今度友達といくということで、卒業後の余暇につながっている実感があった。 ● 次年度にむけて、校外学習を12年間系統立てて行う計画がある。 ● 授業でもライフのキャリアを意識していきたい |
| 富永委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者金融の課題なども含めて、ライフキャリアと絡めて取り組んでほしい。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小中の取り組みについてはどのようになっているか？ |
| 阪本校長 | <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育プログラムの小・中での取り組みについては、まずは高等部で先行して取り組んで、その実績を元に小中については検討していきたい。 |
| 牧添委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育プログラム、シラバス、ペスク、ICT など、一つひとつに専門的な知識が必要なが多いので、継続して行ってほしい。 ● 自分の子どもが入学した時は、教室に入ることもできなかった。今は一人で自転車に乗って、スイミングに行っている。コンビニに行ったりする練習もしている。 ● 先生方はいつも子どもたちに寄り添ってくれている。捕まえた虫を持って帰れるように準備してくれたり、宿題を手作りで作ってくれたり、子どもが愛されていると感じた。 ● 子どもたちが自由に他のクラスに行き来したくなるような、ヤモリのいるクラス、理科の実験の準備をしている先生のクラス、廊下を腹ばいで滑る板など仕掛けをしてくださり、楽しそうにあちこちに行っていた。6年間ありがとうございました。 |
| 辻委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 寝屋川支援は緻密なところ、阪本校長が以前勤めていた難波支援学校はアクティブさが良いところ。次年度の学校経営計画はその緻密さとアクティブの良さが重なっていて、すごく良いものになってきている。 ● 学校経営計画は子どもの成長をするためのもので、牧添委員の感想はそのことを保護者目線で伝えてくださった。これ以上に嬉しいことはない。 |